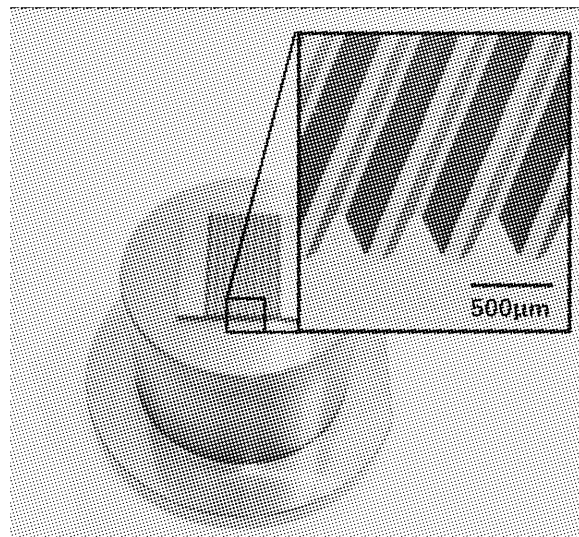




金型材にU字やV字形状の微細な溝加工を施し、光デバイス市場を開拓

【企業メモ】1949年6月創業。53年には東京都大田区下丸子に東京工場（現本社）を建設した。このころから超硬耐摩耗工具製造を本格的に開始。さらなる業容の拡大を目指して57年3月、本社を下丸子に移転した。

これに先立って、事業領域の拡大を視野に23年11月には超精密加工技術を生かす先端加工開発部を新設。ガラス成形用の金型材にU字やV字形状の微細な溝加工を施すことで、光デバイス市場の開拓にも力を注いでいる。

「人間尊重、人間中心の経営」の2本柱の企業理念として脈々と受け継がれている。技術開発本部長の篠宮護取締役は「自分も幸せでないと相手（取引先）を幸せにできないという考え方のだろう」と創業者の意向を解釈する。

創業者の意向を継承しつつ、2024年1月に5代目社長に就任した春田善和社長は、100年企業を目指し新たな成長の源泉力となる新規事業の確立を戦略の一つに掲げた。同社は高精度・高精度の超硬耐摩耗工具・金型を製造する際に必要となる「粉末冶金技術」と「超精密加工技術」の二つのコア技術が同社製品の競争優位性を高めていることに注目し、22年から新規事業プロジェクトを始

動。「自社が持つ技術を応用して領域拡大につなげ、立ち上げスピードを加速化する」（篠宮取締役）ため、24年7月にはプロジェクトチームを発展的に解消し、新規事業の専門部署を立ち上げた。

富士ダイス

自社技術応用し領域拡大

不変と革新

～長寿経営に向けて～

事業をつなぐ

富士ダイスは工具や金型など超硬耐摩耗工具市場で国内トップシェアを誇るメーカーだ。創業以来、順調に業績を伸ばし、黒字経営を継続している。

同社は職業軍人だった創業者の新庄鷹義氏が、福岡県戸畑市（現北九州市戸畑区）で耐摩耗工具加工を目的とする富士ダイス製作所を設立したのが始まりだ。富士山にあやかりつつ、「常に完成を目指して精進し続ける会社でありたい」との願いから、点のない「富士」を社名に入れた。産業構造が変化する中で、創業者のDNAは「事業を通して広く社会に貢献し、幸せな人を育てる」